山口　敏子　議員

デイサービスの外出を増やし、リハビリ効果向上を

問

夫が利用していたデイサービスセンター（＝以下「施設」）は、外出が売りだった。

朝、施設に行くと入浴、昼食を済ませ、午後は交通費が安価で時間内に車いすで行ける所へ施設のバスで行き、楽しそうに半日を過ごしていた。

この施設は17年度末の県の監査で、室内訓練を中心にやりなさいという内容の指導を受けたそうである。

バスの乗り降りや外の空気に触れ、社会とつながりを持つことは、脳の刺激になり、生きる喜びのリハビリになると、看護師や施設長が力説していた。

夫が亡くなる直前まで楽しそうに話していたことを、私も喜びに思っていた。

施設では現在、何とかやりくりして月2回ほど出掛けており、せめて4回ぐらいにできたらと施設長は言っている。

市ではこのような指導をしているか。

希望施設を選択してほしい

答 介護高齢課長

外出等の件数を（減らすことを）市は指導しておらず、介護保険制度の中でそれぞれの通所施設は運営している。

現在市内に9カ所の施設があるので、散歩、外出等も含め、一番本人の希望に沿う事業所でサービス提供を受けてもらえればと考えている。

他市事例を参考に資料館充実を

問

北名古屋市歴史民俗資料館【☞】は、回想法の拠点としてすばらしい設備内容を持っている。

回想法はアメリカの精神科医が提唱し、高齢者が回想に浸ることで生きがいや自分を取り戻すことにつながるとした心理療法である。

市歴史民俗資料館（＝以下「資料館」）も、市の特色を備えた資料館に生まれ変わり、観光の目玉、弥富の宝箱にしたらと思うが、どのようにこの資料館をしていくのか。

☞ 北名古屋市が運営し、昭和に関する展示が充実している。また「お出かけ回想法」と題し、認知症ケア等を目的に、デイサービス見学を勧める高齢者事業を実践している。

庁舎改築時には並行し考えたい

答 市長

資料館の今までの生い立ち等も考えていかなければならないが、大変手狭になっていることも事実である。

近い将来、例えば庁舎改築等を行った場合においては、並行的に考えていきたい。

そしてさまざまな市の資料を市民が考え触れられる、参加型の資料館にしていければと思っている。